

令和5年度 大津市立伊香立中学校 学校評価書

評価の基準 (3:よくできた 2:できた 1:あまりできなかった 0:まったくできなかった)

項目	評価の観点	自己評価 (3・2・1・0)	学校関係者評価 (3・2・1・0)	R5自己評価に関する考察 成果 ▼課題	R5学校関係者のご意見 ◇評価 ◆改善・期待	R5今後の展望(見通し)◎
校務運営	* 教育目標、指導計画等教育課程の編成や実施	3	3	○本校の教育課題はわかりやすく、課題解決の教育目標が全教職員に理解されている。 ○大切にしたいことを教職員にも生徒にも見える化している。意識しやすいものとなっている。 ○「学校予算は、各担当まで周知され、適正に執行・処理されている」の「よくあてはまる」が、昨年度に比べると約30%上昇している。	◇教育課題や目標が明確にされ、学校運営協議会等で詳しく説明されている。 ◇学校周囲の環境(自然が多い、保幼小中連携)、小規模校であることの特性を活かした運営がなされていると思います。 ◇生徒一人ひとりを大切に教育を丁寧に進められておられることに感心しております。今後とも地域の校園で連携してよりよい伊香立の子を育てていきましょう。 ◇地域と共に歩む学校運営を今後とも大切に、すべての生徒を支えてこそ学校であるとの信念のもとに順調な学校経営がおこなえていると感じました。 ◇伊香立中学校ならではの心配りとペースと存在感、そして学校で過ごす時間を大切にされています。	◎教育目標は、本校が過去から大切にしてきたものであるため、大きく変更せずに継承していく。 ◎教員も生徒も「教育目標を意識する」ためにも、教育目標の見える化をすすめていく。 ◎各取組については、学年により課題が異なるため、骨格であるシステムをPDCAサイクルで見直し、よりよいものにしていく。 ◎予算については、学校経営管理計画とリンクさせ、どこにいくら使っていくなどがよくわかるように見える化をすすめる。また、保護者負担を少しでも少なくしていくための周知と見直しをすすめる。
	* PDCAサイクルを生かした学校運営	3		▼年間行事を精選し、必要な行事のみ残していくことが必要である。 ▼各自が行事の振り返りを提示しての情報共有はあるが、全体で意見を交える機会がないので実施する必要がある。 ▼学年ごとの生徒の課題が毎年異なるため、PDCAサイクルで取り組むには難易度が高い。 ▼生徒会予算については、各委員会や部活動で年度当初に決められた金額が使えていない。 ▼学校経営管理計画と関連させて、学校予算を配当していく必要がある。 ▼保護者負担をできるだけ軽減したいと考えているが、少人数のため、負担感がある。 ▼保護者の負担について、周知と見直しが必要である。		
	* 保護者負担軽減をめざした予算計画と適切な執行	2				
主体的・対話的で深い学び	1 支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践	3	3	○縦割りで行う授業や体験活動によって、生徒の成長が見られる。 ○縦割りで行う授業や体験活動の計画は、事前に教員間で情報共有ができています。 ○どの教科においても、主体的・対話的な学びを意識して指導している。	◇小規模校の特性を活かして、全校生徒が交流できる機会を多く設けている。 ◇行事等もたくさん行い、それぞれに活躍の場を設定しておられるのもよく分かりました。	◎地域での活動や地域の方々から学校に来ていただく活動が再開されてきている。地域の方々との触れ合いの中で自尊感情の育成を図っていききたい。 ◎一人ひとりの生徒が授業で達成感や達成感が得られ、子どもたちの多様な意見を生かせるような授業づくりに取り組んでいく。 ◎本校の生徒の実態として、「協働的で深い学び」が今後も難しいことが予想されるが、「協働的で深い学び」につながるよう、複数人による学びを推進していく。 ◎ICTの活用に関しては、端末やソフトごとに市町や県で研修が行われている。各自で個別に必要なと思われる研修に参加していく。 ◎技術科・家庭科・美術科にもタブレットが使えるように、割り当てていく。
	2 協働する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善 (ICTの活用含む)	3		▼どの教科においても共通実践として、「主体的・対話的で深い学び」を実践する授業づくりに継続して取り組み、発展させることが必要である。 ▼ICTの活用は技術の進歩により、日々新しい方法が更新されている。常に各教科担当による個別の研修が必要である。 ▼コンピューター室の機材の撤退により、技術科・家庭科・美術科においてもタブレットが使えるようにする。	◆少人数のため、生徒自身が、学力がどの位置にいるのか実感しにくいのが難しいところだと思います。協力する姿勢はよく育まれていると思います。競い合う機会・対象が大規模校と比べて少ないかもしれません。その分生徒の個性をしっかりと伸ばす教育・指導をこれからも続けてください。	
	3 主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会の実施	2				
道徳教育の充実	4 生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳実践力を育てる活動の実施	3	3	○道徳科の授業だけでなく、ICT機器を使った全校道徳を実施することができた。 ○各学年の発達段階や特性に応じた教材の選択・教材研究を行い授業ができた。 ○保護者参観の機会を設け、実施することができた。 ○研究授業等を行い、授業に関して交流することができた。	◇薬物依存の恐ろしさ、多様性を受け入れ、お互いを尊重することの大切さを授業で伝えられています。 ◆地域の歴史や文化、先人など愛郷心を育む教材開発ができないか。 ◆担任のみに任せるとはならず、他の教員と協力して取り組んでいってほしい。	◎各学年の課題や特性をふまえた教材研究に継続して取り組んでいく。 ◎道徳教育推進教師だけでなく、全教員が道徳教育について研修する機会を設ける。 ◎担任だけに任せるとはならず、学年の教員全員で道徳科の授業をつくっていく。 ◎参観に来られない保護者に向けて、ICT機器等を使用した参観の方法を検討する。
	5 ものごとを様々な視点からとらえ考えさせる道徳科の授業・評価に関する研究	3		▼学年内での教材交流や振り返りができなかった。		
	6 保護者等への道徳科の授業公開	3				
体力づくり	7 たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	3	3	○授業や部活動において、運動・スポーツに親しむ・楽しむ機会を設けられた。(例：音楽をかける) ○若手な生徒は多数いるものの、周囲の雰囲気についてこれようになっている。 ○部活動で、負荷や強度をかけたトレーニングに取り組むことができた。	◆現代の子どもたちは運動する機会が減っており、部活動での体力づくりも昔とは異なっています。体を鍛えることで心も強くなる、打たれ強さを身に付けてほしい。	◎縦割り活動は、競技特性に合わせて取り入れていく。 ◎体を動かす機会を増やす観点から、昼休みにグラウンドへ出て活動する機会を設ける。(養護教諭と連携) ◎感染症対策のシミュレーションを時期に合わせて行う。 ◎食育は、行政と連携をとって継続する。
	8 体力づくりを推進する運動実践	3		▼低い(少ない)負荷や強度なので、もう少し上げた形で取り組める心を養いたい。		
	9 生涯にわたって健康を保持増進し、進んで体を動かそうとする意欲の育成	2				
指導改善 (組織的・計画的)	10 学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	3	3	○「めあて」「まどめ」「振り返り」については、各教科の実態に沿った文言でカードを掲示し、授業内容・流れを明確にしている。 ○「めあて」を提示することで、1時間の授業の見通しが持てるようになっている。 ○タブレット端末の導入3年目ということで、教科・行事等で「調べ学習・発表・レポート作成」に取り組めてきている。また、「朝・帰り学習」等で活用する機会を継続してもつことができています。	◇少人数を生かした指導方法が工夫されていると思う。 ◇「めあて」を示されており、本授業で学ぶことが明確となるので良いと感じています。ICT(動画)を活用されていることで、生徒も関心を引きやすいと思います。 ◆生徒の回答で自主的読書活動に否定的な回答が10人と多かった。読書の楽しみを見つけれられる指導を深めてほしい。 ◆生徒アンケートより、読書の評価が低いことがわかる。授業での周知や保護者にもっとアピールしていく必要がある。 ◆個々に目標を具体的に決めなければ、働き方の改善は見られないように思う。	◎各授業の「ねらい」「まどめ」「振り返り」は継続し、身に付けさせたい力(活動のゴール姿)がイメージできる生徒を増やしていく。 ◎生徒への言葉かけや接し方、さらに支援方法についての研修機会を設け、教職員同士で共通理解を強化していく。 ◎生徒が自らすすんで読書に親しめるように環境を整えていく。
	11 教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上	2		▼働き方改革については、昨年同様に課題が改善されていないのが現状である。(退勤時間への意識はあるが、業務(校務)の負担は変わらないため、勤務時間内で終わらすことは厳しい。さらに生徒への支援として、授業のサポートを強化しており、他の業務がこなせず後回しになっている。)		
	12 働き方改革の取組と教育活動の質の改善	2				

令和5年度 大津市立伊香立中学校 学校評価書

評価の基準 (3:よくできた 2:できた 1:あまりできなかった 0:まったくできなかった)

項目	評価の観点	自己評価 (3・2・1・0)	学校関係者評価 (3・2・1・0)	R5自己評価に関する考察 〇成果 ▼課題	R5学校関係者のご意見 ◇評価 ◆改善・期待	R5今後の展望(見通し)◎
育ちと学びを支える連携						
① 家庭・地域との連携・協働	13 子育てや家庭学習に対する保護者への積極的な支援	2	3	<p>〇新型コロナウイルスの収束宣言もあり、学校や保護者・地域との交流に関しては実施することができ、基本的に評価も良い傾向がみられた。</p> <p>▼家庭での学習習慣を確立するための支援や、子育てや家庭教育に対する支援の他、様々な情報の発信に関して、「家庭学習の手引き」やその他通信等を発行しているにもかかわらず、『よくあてはまる』が減少している(「あてはまる」を入れると、トータルのにはできているとは見なせる)。</p> <p>▼防災・感染症対策は避難訓練の実施や感染症対策も適宜行っているにもかかわらず、評価が下がっている。</p>	<p>◇教員との距離感が近く、学校と家庭が共働で生徒を支援していると感じます。校舎入口に日々の活動風景をスライドで流して頂いているので学校の様子がわかりやすい。</p> <p>◆地域への発信は、多くの住民が中学校を身近な存在として関心を向けてもらえるような工夫があってもいいと思う。</p> <p>◆生徒アンケートより、スマホルールの評価が低いことがわかる。授業での周知や保護者にもっとアピールしていく必要がある。</p>	<p>◎実施していることや配布しているものを生徒や保護者にきちんと伝えるような工夫が必要である。</p> <p>◎保護者同士がつながる仕掛け(授業参観、PTA研修、1・2年生の1学期末懇談会を学級懇にする等)をつくる。</p> <p>◎スマホルールが作成されてから時間も経っており、アピールができていない。スマホルールを、学校のきまり同様に1学期早いうちに再度周知するか、見直す必要がある。</p>
	14 保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	3				
	15 防災教育・感染症対策の推進等を含む、地域の実態に応じた安心・安全な学校づくり	2				
② 保幼小中の連携	16 子どもの校種間交流や教員の出前授業	3	3	<p>〇学校夢づくりプロジェクトの取組が充実していた。特に、今年度は様々な取組を実施したので、保幼小中が連携する場面が多かった。</p> <p>〇年間2回の小中合同道徳研修会(8月に道徳の評価に係る研修会、2月に道徳の授業公開及び研究協議会)を開催した。</p> <p>〇3学期に出前授業(数学)を実施する。</p> <p>▼合同研修会を有意義なものにするために工夫が必要である。</p>	<p>◇地域の保幼小中合同での活動はとても良い。小さい子どもたちは将来のイメージ、中学生には企画する、人をまとめるなど社会に出ていくための準備になると思います。</p> <p>◇地域のマルシェやプロジェクト事業の中心になって、生徒のみなさんが笑顔で参加されていた事が地域への活気や明るさにつながり、とても素晴らしいと思いました。小さい子どもたちも、その姿を見て憧れ、育っていくと思います。保幼小中のつながりを大切に、思いやりの心が育っていき教育が素敵だと思えます。</p> <p>◆幼稚園としては、夢づくりプロジェクトのみの交流になっているため、もう少し交流できる機会があれば良いと感じています。</p> <p>◆学校選択に対する小5への働きかけの充実を願う。</p> <p>◆特に小学校への出前授業や交流・連携活動を通して、さらに伊香立中の魅力を発信してほしい。</p>	<p>◎出前授業や小学校5年生への学校生活の紹介など、相互交流を活性化していく。年度初めに、学校選択をする前の6年生に対する働きかけも考えたい。</p> <p>◎行っている地域学習の内容を小中で交流する。</p> <p>◎保幼小中連携の計画を年度ごとに変更するのはではなく、持続可能な大枠の計画を決定する会議の設定を模索していく。</p> <p>◎他教科から学べることもあることから、合同研修会を道徳に限らず実施することを検討していく。</p>
	17 校種間の授業公開や合同研修会	2				
	18 保幼小中の接続期の教育課程の編成等、円滑な接続を図る校種間のカリキュラム研究	2				
組織的体制の充実						
① 生徒指導体制の充実	19 いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導 ※	3	3	<p>〇学年内や関係機関との報告・連絡・相談はできている。</p> <p>〇出前授業として、携帯電話会社の社員によるSNS講座(7月)や薬剤師による薬物乱用防止学習(12月)を実施した。</p> <p>▼情報共有において、与えられるものだけではなく、自ら積極的に獲得しようとする姿勢をどの教員も持つべきである。また、得た情報について「自分事」として捉えていくべきである。</p> <p>▼SCとの連携がうまくいかないこともあった。</p>	<p>◇生徒一人一人を先生方がよく理解していただいていると感じます。</p> <p>◇伊香中祭を中心に、生徒たちが主体的に行事に取り組み、盛り上げるよう指導されていると感じます。</p> <p>◇生徒一人ひとりを大切に、理解しながら導いておられると思います。</p>	<p>◎引き続き報告・連絡・相談を充実させ、教員の意識を高めていく。</p> <p>◎最悪の状況まで想定して生徒指導の方針を決める。</p> <p>◎開発的生徒指導を心がけ、後追い指導ではなく、先手を打つような指導をする。</p> <p>◎SCとの連携をスムーズにできるよう、体制を構築する。</p>
	20 生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進 ※	3				
	21 家庭・地域・関係機関との連携による指導	3				
② 特別支援教育の充実	22 個別的教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	2	2	<p>〇教育支援センターや北大津養護学校と連携し、巡回相談やWISC検査、さらに教育相談(保護者および教員)を実施し、生徒理解を深め、支援の手だてを考える参考にすることができた。</p> <p>▼昨年度と比較し、「先生(学校)はあなたのよいところを認めているか」という項目について、保護者の評価は向上したが、生徒の評価が0.1%減少した。教科のTTなど個別の支援について、個々の生徒に対し適切な支援ができているか見直す必要がある。</p> <p>▼組織的な体制づくりとして、教育支援部会の会議を持ち方を考える。伝達事項だけでなく、協議事項の時間を確保する。</p>	<p>◇個別の指導計画を教員で共有されており、充実していると感じます。個性が重視される世の中になっており、今後教員の負担が過重にならないかという懸念はあります。</p>	<p>◎TTの支援の仕方を共通理解する研修の機会を設ける。</p> <p>◎特別な支援を要する生徒の情報を、年度初めの会議で共有する機会を充実させる。</p>
	23 組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	2				
	24 関係機関と連携した相談体制の充実	3				
※ 特にいじめについては、学校基本方針の評価と関連させて行うこと						
学校満足度	25 児童生徒の学校満足度	3	3	<p>〇「学校は楽しいですか」の問いに対して、「よくあてはまる」と回答した生徒は約4%増加しており、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答した生徒は昨年度より約7%減少している。このことから、生徒が良好な人間関係のもとで前向きに学校生活を送っていることがうかがえる。</p> <p>〇子どもが「学校を楽しんでいるか」の問いに対して、「よくあてはまる」と回答した保護者が約17%増加し、「授業がわかりやすい」と言っているか」の問いに対して、「よくあてはまる」と回答した保護者が約5%増加している。また、「先生が努力を適切に評価してくれるか」の問いに対しては、「よくあてはまる」と回答した保護者が約20%増加している。これらのことから、学校の様々な取組や支援による成果や結果が、昨年度より保護者の期待に近づいてきていると思われる。</p> <p>▼「自分にはよいところがあるか」の問いに対して、「どちらかと言えばあてはまる」以上の回答した生徒は約7%増加したが、「全くあてはまらない」と回答した生徒が21%あり、昨年度より増加した。また、「授業はわかりやすい」と思っていますか」の問いに対して「どちらかと言えばあてはまる」以上の回答をした生徒が100%となっているものの、「よくあてはまる」と回答した生徒が約18%減少している。このことから、多くの生徒が学校生活においておおむね満足していると思われるものの、自分に対する自信のなさや自尊感情の低さを感じ取り、学習や取組に対する意欲や積極性等にも影響していると思われる。また、すべての生徒が学びの必然性を感じ、学習への興味・関心や学びに向かう意欲を高められる授業づくりが求められている。</p>	<p>◇学校は「楽しいところ」であることが一番。アットホームな雰囲気と先生方のきめ細やかな指導に敬意を表します。</p> <p>◇学年の枠を超えて生徒全体がひとつになり活動していること、そこに教員や地域支援者も加わり、協働できていると感じます。</p> <p>◆生徒の自信のなさや学習意欲の向上の数値が減少したこと、改善策に取り組んでほしい。</p> <p>◆一人一人の個性を伸ばす教育を今後も期待します。</p>	<p>◎全生徒が自尊感情を高め、学校生活での満足だけでなく、学びに向かう力を高め、将来の夢や目標に向かって自分で道を拓いていけるよう、生徒が自ら学びたいと思える授業づくりやキャリア教育の充実に一層力を入れる。</p> <p>◎「自己有再感」に裏付けられた「自尊感情」の獲得を基盤として、生徒一人ひとりの自立・自律を支えるため、様々な方との出会いや豊かな体験活動を充実させる。</p> <p>◎子どもは認められて(自信をもって)育つという発想を基盤に、今後子どもたちの良さと努力を認め、子どもに寄り添いながら発達を支援していく。</p> <p>◎学校選択制で伊香立中を選んだ生徒や保護者の意見を聴取し、小学校に伊香立中学校の良さをアピールできるようにしていく。</p>
※ 児童生徒アンケートのすべての評価の平均値(3点満点、小数第2位まで記入)	2.20					
※ 保護者アンケートのすべての評価の平均値(3点満点、小数第2位まで記入)	2.54					